

平成28年度(2016)の行事予定

生物多様性豊かな草原の復元管理計画 植生調査とネザサ刈りを行います

東お多福山草原保全・再生研究会

植生調査は調査班を編成して行います。調査班は草花に詳しい人を調査員として、これから植生を勉強しようと思う人は調査補助員として、筆記だけの人は記録員として、カメラをもってカメラマンとして、刈り払い機、鎌や刈り込み鋏が使える人はネザサ刈りを行ってもらいます。いろいろな参加形態がありますので、気楽に参加ください。

○集合場所は東お多福山北方、土樋割峠です。

平成28年4月16日(土) 予備日 4月17日(日)	早春の全面刈り 大人数必要です	集合 9:00AM 申込4月6日まで
平成28年5月25日(水) 予備日 5月26日(木)	春の植生調査及び外構の笹刈り	集合 9:00AM 申込5月14日まで
平成28年7月20日(水) 予備日 7月21日(木)	夏の植生調査及びコドラートの笹刈り 大人数必要です	集合 9:00AM 申込7月9日まで
平成28年10月5日(水) 予備日 10月6日(木)	秋の植生調査及び外構の笹刈り	集合 9:00AM 申込9月24日まで
平成28年11月23日(水・祝) 予備日 11月24日(木)	晩秋の全面刈りその1 大人数必要です	集合 9:00AM 申込11月12日まで
平成28年12月10日(土) 予備日 12月11日(日)	晩秋の全面刈りその2 現役世代歓迎!	集合 9:00AM 申込11月30日まで

※東お多福山草原生物多様性ガイド養成講座も開講します。詳しくは5Pをご覧ください。

行事の問い合わせは、桑田(H・P 090-3166-9785)までどうぞ。

○当日の天候判断は、前日の17:00迄に行い、各団体で参加者に通知してください。

○参加人数は各正会員(団体)、各協力団体でまとめ、

副会長 桑田または副会長 橋本(TEL&FAX:079-559-2014)までお知らせください。

○傷害保険、交通費などは各自で対応をお願いいたします。

平成27年度(2015)の報告

平成27年度は下記の通り、行事を行いました。

平成27年4月14日(火)	早春の全面刈り	参加者	76名
平成27年4月18日(土)	阪急阪神HD協賛イベント(詳細は4P) Staff 25名	参加者	35名
平成27年5月20日(水)	春の植生調査・外構部のササ刈り	参加者	43名
平成27年6月27日(土)	生物多様性ガイド養成講座 第1回	参加者	48名
平成27年7月30日(木)	夏の植生調査	参加者	8名
平成27年8月29日(土)	生物多様性ガイド養成講座 第2回 Staff 6名	参加者	20名
平成27年10月3日(土)	生物多様性ガイド養成講座 第3回 Staff 6名	参加者	20名
平成27年10月7日(水)	秋の植生調査および外構の笹刈り	参加者	60名
平成27年10月12日(月・祝)	生物多様性ガイド養成講座 第4回 Staff 8名	参加者	44名
平成27年10月31日(土)	「こうべ森の文化祭2015」へのブース出展	Staff	5名
平成27年11月8日(日)	「ひょうご森のまつり2015」への参加	参加者	2名
平成27年11月25日(水)	晩秋の全面刈り(その1)	参加者	50名
平成27年11月28日(土)	生物多様性ガイド養成講座 第5回 Staff 7名	参加者	20名
平成27年12月12日(土)	晩秋の全面刈り(その2)	参加者	54名

東お多福山のススキ草原の再生を目指して

生物多様性豊かな草原の復元管理計画 平成27年(2015) 第8年次報告書

はじめに

かつて、東お多福山には多様な草原生植物が生育する六甲山系最大のススキ草原が広がっていました。しかし、戦後の採草活動・刈り取り管理の停止、山火事の減少などによりネザサの勢力が増してススキや草原生植物が極端に減少しています。私たちは、生物多様性の保全・再生の観点からススキ草原の復元を目指して平成19年度より活動をはじめています。

活動報告

今年度は、昨年度に実施した9,000㎡のほか、特別保護地区の眺望点までのハイキング道の刈り幅を広げて1,000㎡の草原を新たに刈り取りました。実験区では草原生植物のモニタリングを行い、ススキの被度の増加、草原生植物の生育状況が順調であることを確認しました。また増加したススキを芦屋市の文化財の屋根葺き材として収穫する試みも行いました。一方、雨天に見舞われる日が多く活動中止や時間短縮を余儀なくされたほか、登山道の崩壊で登山口からの人力による道具運搬も大変でした。特に夏季の調査区内でのネザサの選択的刈り取りが実施出来ませんでした。

普及活動では阪急阪神HDの協賛による「草原をわたる風と音色!六甲山系「東お多福山」草原管理ボランティアとジャンベライブ!」や、昨年度と同様の生物多様性ガイド養成講座を開催し、新しい賛同者やガイド部会の輪を広げました。また、平成25年度に行った古写真調査の成果を古写真展を7カ所で開催したほか、古写真集の編集・電子版の作成を行いました。



写真(左):1974年当時の東お多福山のススキ草原。わたしたちはこの姿に再生することを目指しています。

写真(右):方形区内で手厚く保全されたススキの株は大きく、背丈も高くなっています。ススキ草原らしい姿になっています。

植生調査と
ネザサ刈り
を行っています。

■実施団体

東お多福山草原保全・再生研究会

<メンバー>ブナを植える会、こうべ森の学校、(公社)日本山岳会関西支部、芦屋森の会2001、神戸植生研究会、淡河かやぶき屋根保存会くさかんむり、生涯学習塾「めばえ」、西宮明昭山の会、NPO法人豊かな森川海を育てる会、マスターズゼミ山あるきの会

■協力機関

兵庫県神戸県民センター、環境省近畿地方環境事務所、神戸市建設局森林整備事務所

この事業は下記の助成を受け実施しています。

公益信託自然保護ボランティアファンド、森と緑とのふれあい支援事業助成金、
コープこうべ環境基金、公益信託大成建設自然・歴史環境基金、公益財団法人日野自動車グリーンファンド

事務局 〒669-1546 兵庫県三田市弥生が丘6丁目 兵庫県立人と自然の博物館気付 橋本佳延

東お多福山草原保全・再生研究会 事務局:橋本佳延

TEL & FAX 079-559-2014 E-mail:quercus@hitohaku.jp

これまでの調査結果

本活動では平成19年秋より年1～2回の刈り取りを実施し、ススキやその他の草原生植物の生育状況、種多様性の変化を調査しています。草原内に設置した5つの10m×10mの方形区の中にさらに3つの小方形区(2m×2.5m)を設け、方形区内の植物相と小方形区内の植物の種数、ススキとネザサの草丈、各植物の被度の計測を行っています。

(1) 調査区2の状況

2015年は秋のみ刈り取りを行いました。ネザサの被度は前年よりやや少ない70%程度となり(図2)、最大高は0.65mと前年とほぼ同程度でした(図1)。ススキについては前年同様にネザサよりも最大高が高く維持された(図1)ために、ネザサによる被陰影響はありませんでした。平均被度は前年度より増加し、27%と2013年の水準に回復しました。

草原生植物の被度合計は前年よりも増加し、モニタリング開始以降で最高値を示しました(図3)。草原生植物の種数については前年に比べ微増しているものの、2009年以降はほぼ横ばいといえます(図3)。

(2) 調査区3の状況

2015年は雨天のため夏のネザサの選択的刈り取りが出来ませんでした。そのためネザサの被度は前年よりも増加し31.7%となりました(図2)。またネザサの最大高は0.33mとなり前年に比べ高くなっています(図1)。草原生植物種数は11.7種と横ばい傾向にあります。被度合計は4.2%とモニタリング開始以降で最高値を示しました。これはネザサの被度が増加したもののその値は低く抑えられているため、草原生植物の生育を妨げるレベルでなかったことやネザサの選択的刈り取りの際の踏圧や誤って刈り取られることが避けられたためと考えられます(図3)。ススキは最大高が1.27mと前年に比べやや減少しましたが、前年同様にネザサよりも高く維持されています(図1)。また、被度は55.0%となり2007年の管理開始より順調に増加していました。

(3) 調査区4の状況

2015年は秋のみ刈り取りを行いました。ネザサの最大高は0.40m(図1)、被度も73.3%(図2)と前年とほぼ同じに推移しました。ススキは植物高が1.27mと前年度よりも高くなり、ネザサよりも高く維持されました(図1)、被度は前年度とほぼ同程度でした(図2)。草原生植物の被度合計は前年より減少しましたが2013年よりは高い値を維持しています(図3)。一方、種数

は微増していましたが2007年の管理前からほぼ横ばいに推移しています(図3)。

(4) 調査区5の状況

2015年は夏にネザサを選択的に刈り取れませんでした。そのためネザサの被度は45.0%と前年よりも大幅に増加(図2)、最大高は0.30mと微増しました(図1)。ススキについては植物高が1.40m(図1)、被度も56.7%となりいずれも増加、2007年の管理開始より順調に増加しています。草原生植物種数は14.7種と微増、被度合計は4.7%と前年度より0.7ポイント増加し、2013年以降再び増加傾向に転じました(図3)。

(5) 調査区6の状況

2015年は夏にネザサを選択的に刈り取れませんでした。そのため、ネザサの被度は前年よりも大幅に増加し45.0%となりました(図2)。一方、植物高は0.37mと低く抑制されました(図1)。ススキについては植物高が1.33mとなり、モニタリング開始以降で最高値を示しました(図1)。被度は33.3%で2012年からほぼ横ばいに推移しています。草原生植物種数は17.7種で前年より1種の増加、被度合計は4.5%と前年度より1.2ポイント減少しました(図3)。

(6) まとめ

モニタリングの結果、ススキの生育状況はNo.3～6のいずれも良好で、管理開始時より順調に増加しています。No.2は昨年度は被度の減少がみられ、生育状況の悪化が心配されましたが回復傾向にあります。夏にネザサを選択的に刈り取りが出来なかったNo.3、No.5、No.6ではいずれもネザサの被度が大幅に増加する傾向が見られましたが、ネザサの植物高は低く抑えられススキの優占群落で維持されるようになってきました。東お多福山草原の本来の姿であるススキ-ネザサ群集の植生構造(背丈の高いススキの足下でネザサが繁茂する)も全区画で維持されています。

草原生植物はNo.3、5、6では種数が高い水準で維持され、被度合計はNo.3、5で増加傾向が維持されています。ただし今年度のネザサの選択的刈り取りがなされなかった事の影響が次年度に現れる可能性もあり注意が必要です。No.2、No.4については種数・被度ともに頭打ちの傾向にあります。

東お多福山草原を草原生植物豊かなものとするためには、今後は刈り取りの継続によってこれらの状態を維持するとともに、管理面積を広げ草原内に残る草原生植物個体群の保全箇所を増やしていくことが必要です。

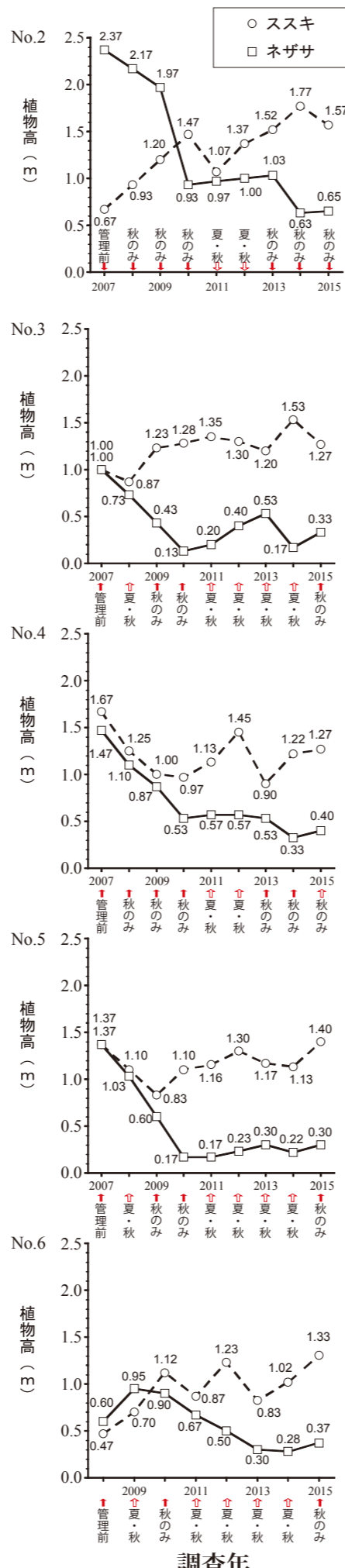


図1 ススキおよびネザサの植物高の推移(秋季) ↓は刈り取り時期を示す。夏はネザサを選択的に刈り取っている。

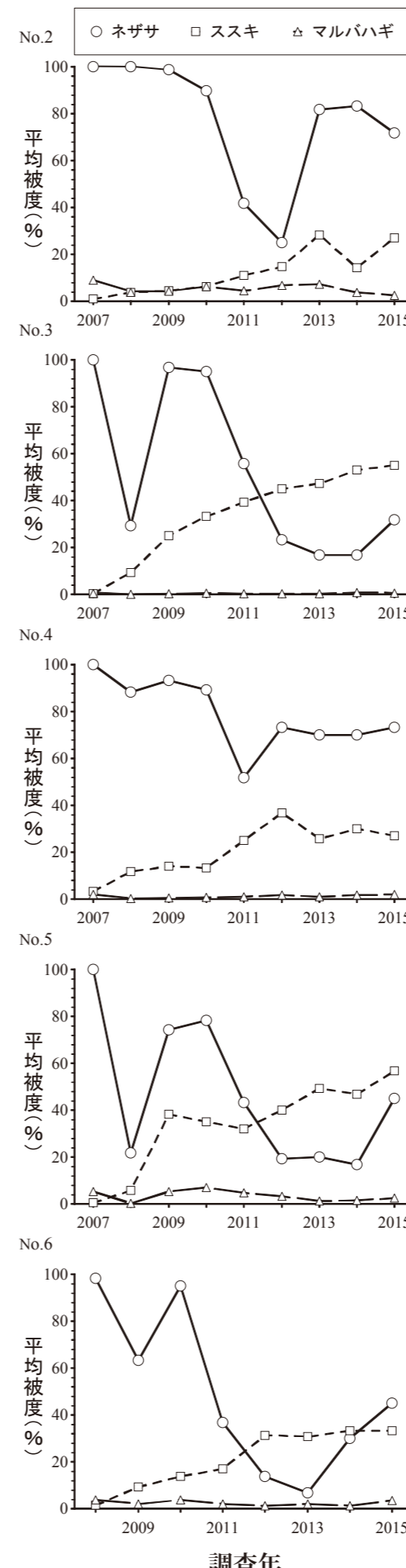


図2 各調査区におけるススキ、ネザサ、マルバハギの被度の推移

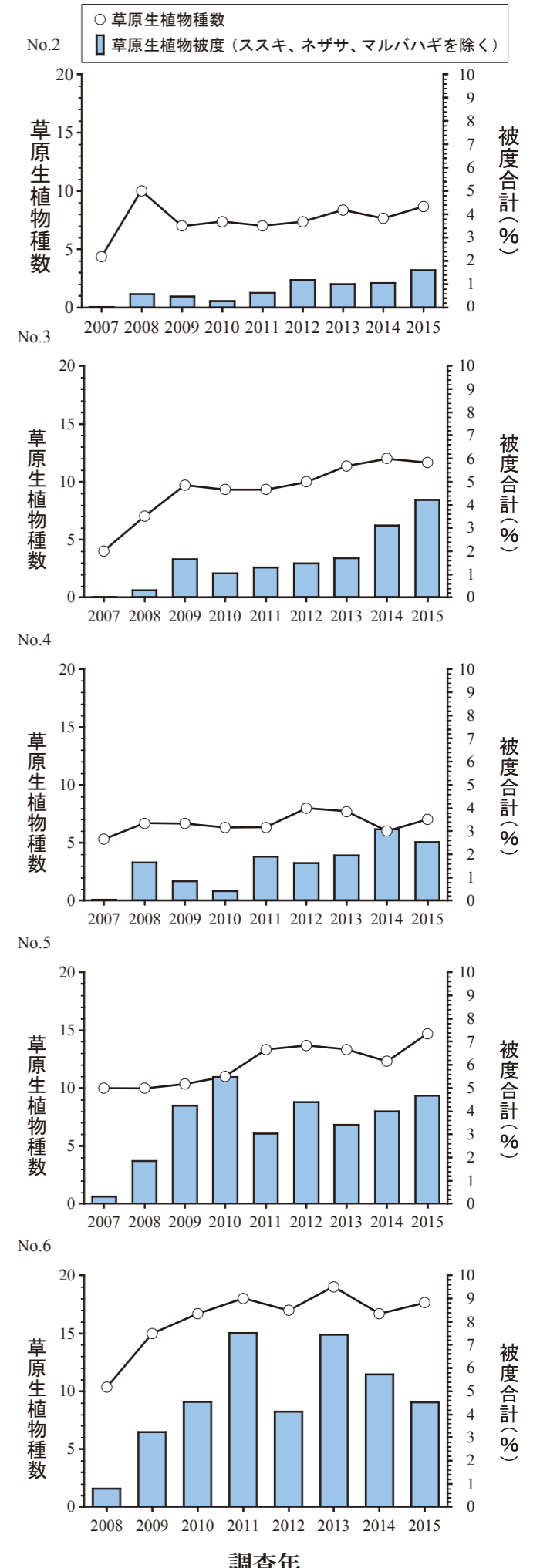


図3 各調査区における草原生植物の種数(折れ線)および被度合計(棒)の推移(被度合計についてはススキ、ネザサ、マルバハギを除く)

■ 平成26年度トピックス

「草原をわたる風と音色! 六甲山系「東お多福山」草原管理ボランティアとジャンベライブ!」を阪急阪神HD協賛で実施! (橋本佳延)

4/18(土)に「草原をわたる風と音色! 六甲山系「東お多福山」草原管理ボランティアとジャンベライブ!」を当会主催、阪急阪神ホールディングス(株)の協賛で実施しました!雨続きの4月にあつて、幸運にも晴天に恵まれ、35名の参加者と15名のスタッフ、10名の演奏者が草原内で楽しいひとときを過ごしました!阪急阪神HDさんの絶大なるご支援・広報力により、今までにない若い年齢構成で活動が実施出来たことが最大の収穫です。

午前中は東お多福山登山口から山頂まで植物観察をしながらハイキング。メインのガイドは橋本が行いましたが、サブのガイドとして平成26年度東お多福山草原生物多様性ガイド養成講座の修了生2名にご協力いただきました。

お昼を挟んで草原管理体験として草刈り鎌や剪定鋏、植木バサミを用いたネザサ刈りを体験していただきました。慣れないながらも黙々と作業をしてくださる方が多く感激です。また1時間の短い時間だったこともあってか「もっとササ刈りを続けたいね」という、うれしい声も聞くことができました。ササ刈りは荒野を開拓していくような爽快感があり、また自分の作業量が実感できるのでハマります。また、みんなで作業するのも当研究会の活動の楽しみでもあります。

ササ刈り体験のあとはメインのジャンベ(アフリカン太鼓)ライブ!午前中の植物観察中にリハーサルの音色が尾根を超えて響き渡っていたため、期待に胸は膨らむばかり。45分のライブの後半は、みんなで音色に合わせて体を動かし、はじけるような笑顔があふれました!

今回、研究会としての若者向けのイベントの初チャレンジで、細かい点ではいろいろ反省点がありましたが、期待以上の成果が得られたことを実感!ぜひ、今後も若い人が参加しやすいプログラムを用意して、若い人に情報が届くよう広報網を開拓していきたいと思ひます。



東お多福山登山口から山頂まで植物を眺めながらのハイキング、午後はササ刈りを体験した後、音楽鑑賞!最後はみんなでダンスをして楽しい時間を過ごしました!

草原ガイド養成講座(3期目)の開催とガイド部会の拡大!

(橋本佳延)

東お多福山草原生物多様性ガイド養成講座を、今年度も兵庫県神戸県民センターとの共催で実施することが出来ました!昨年度の修了生により構成されるガイド部会(仮)が立ち上がり、メンバーが養成講座の運営をお手伝いくださいました。そのため、今年度の受講生20人は修了生からの受講生の立場に寄り添ったサポートを受けて、和気あいあいとした雰囲気の中で受講されていました。熱心な受講生が多く、第3回のガイド手法講座の際には、予習してきた住吉川・芦屋川の水争いの歴史についてご披露してくださったり、得意の昆虫について解説してくださったりしました。

模擬ガイド実施日には受講生、一般参加者、講師陣を合わせて52名で東お多福山草原内を散策。受講生は、担当の解説地点に到着すると教本の内容を思い出しながら自分自身の言葉で草原の魅力に参加者に語りかけていました(写真 右4段目~5段目)。修了式の後の意見交流会では、1期生・2期生との交流や3期生同士の交流もしたいという声から寄せられ、メーリングリスト(ML)の立ち上げにつながりました。今後はMLを活用して取り組みを活性化させていきたいです。

なお、ガイド養成講座は平成28年度も神戸県民センターとの共催で実施する予定ですので是非ふるってご参加ください(全5回。実施予定日:6月25日(土)、8月20日(土)、10月2日(日)、10月9日(日)、11月26日(土))。

受講生の声 ~三宅武男さん

桑田様からのお勧めもあって2~3年前からネザサ刈りに参加しておりますが、東お多福山をぜひ魅力ある草原にという思いにかられてガイド養成講座にはじめて参加させて頂きました。私は自然観察の知識や経験がないため不安を抱えてのスタートでしたが、橋本先生をはじめスタッフの皆様を支えられてようやく修了することができました。特に模擬ガイドでは、植物についてもまだまだ勉強不足であること、ガイドする際にはもっと創意工夫が必要であること等、自分に不足している点が多々あることに気がつきました。今後はこれらの課題を克服して、自分の力・自分の言葉で東お多福山草原の魅力を伝えることができるよう頑張りたいと思ひます。

今後は春~初夏にも同様の講座をぜひご計画いただければ有難く存じます。又、ネザサ刈りの管理区域を大幅に拡大することは東お多福山草原の魅力向上につながると強く感じましたので、この点については私も積極的に参画したいと思ひています。これからもよろしくお願いいたします。



第1回 座学 (6/27)



第2回 観察会 (8/29)



第3回 ガイド手法講座 (10/3)



第4回 模擬セミナー (10/12)



第4回 模擬セミナー (10/12)



第5回 修了式・懇談会 (11/28)

東お多福山草原古写真展巡回展を阪神間7カ所で実施! (橋本佳延)

平成25年から実施しているひとはくとの共同調査で集まった、東お多福山のかつての姿を納めた古写真を紹介する古写真展の巡回展を、下表に示す7会場で開催しました!

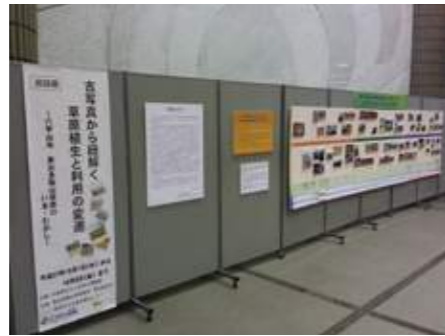
古写真は、動植物に関心が薄い方でも風景や歴史に興味があれば注目して下さる展示物です。今回も、設営作業中に、写真をじっくり眺め、若い頃に訪れたときの様子などを話して下さる方がいらっしゃいました。展示会場では、会の活動についてまとめたパンフレットや刈り取り活動の参加募集のチラシを配布しました。おかげさまで、多くの方に資料を手にとりいただく事が出来ました。普段の活動では接することのない人々に今後につながる東お多福山草原の魅力のPRが出来たと感じています。今後も古写真を用い、効果的に東お多福山の魅力のPRを展開して行きたいと思っております。



神戸市立森林植物園



兵庫県立美術館



ラスタホール



芦屋市立市民センター



神戸シルバーカレッジ



東灘区民ホール



灘区民ホール

表 古写真展巡回展実績一覧

期間	会場	観覧者数	共催団体
8月6日(木) - 8月31日(月)	神戸市立森林植物園2階展示室 兵庫県神戸市 北区山田町上谷上長尾1-2	2200	兵庫県立人と自然の博物館、 神戸市立森林植物園
9月16日(水) - 9月29日(火)	兵庫県立美術館ホワイエ 兵庫県神戸市 中央区脇浜海岸通 1-1-1	2300	兵庫県立人と自然の博物館
10月1日(木) - 10月9日(金)	伊丹市立生涯学習センター(ラスタホール)ロビー 兵庫県伊丹市南野2-3-25	1600	兵庫県立人と自然の博物館 伊丹市立生涯学習センター
10月23日(金) - 11月1日(日)	芦屋市立市民センター 兵庫県芦屋市業平町8番24号	2000	芦屋市教育委員会 兵庫県立人と自然の博物館
11月5日(木) - 11月19日(木)	神戸市シルバーカレッジホワイエ 兵庫県神戸市北区山田町下谷上中一里山	3080	兵庫県立人と自然の博物館
12月26日(土) - 1月15日(金)	神戸市東灘区民センターロビー 兵庫県神戸市東灘区住吉東町5丁目1-16	1875	兵庫県立人と自然の博物館
1月29日(金) - 2月8日(月)	神戸市立灘区民ホール 兵庫県神戸市灘区岸地通1-1-1	開催中	兵庫県立人と自然の博物館

芦屋市文化財への茅の試験的供給 (阿部洋平 (淡河かやぶき屋根保存会 くさかんむり事務局))

2016年は記念すべき年になります。東お多福山でとれた茅(ススキ)が茅葺き屋根の材料として使用されるのです。東お多福山草原保全・再生研究会が活動の成果として目指すものの一つに「伝統文化とつながる」というものがあります。平成27年度には11月25日と12月12日の活動日に草原内に再生してきているススキを収穫する作業を実施しました。鎌で刈って、束にして、小1時間かかる山道を1束2束と皆さんが持てる範囲で担ぎ下ろしました。茅の流通単位でいう2尺×(円約60cm)でいうと約25束ほどの量です!平成26年にも収穫は実施しましたが確実に量が増えていると実感しました。

この茅が、芦屋市の会下山遺跡内にある茅葺きの高床倉庫の葺き替え工事の際に利用されることになりました!会下山遺跡は2016年が発掘調査から60周年という節目にあたります。このタイミングで芦屋市にもまたかつて位置している東お多福山産のススキが芦屋市の文化財に使用されるということは本当に素晴らしく、また感慨深いものがあります。

東お多福山のススキは軸もしっかりしており真っすぐでしなやかな茅として優れた品質を持っております。今後毎年収量も増加するでしょうから、こうやって茅葺き屋根の材料として使用されていく機会も増えていくはずです。活動もますます楽しくやりがいのあるものになってきました。



会下山遺跡高床倉庫(葺き替え前)(芦屋市教育委員会提供)

新会員紹介～マスターズゼミ山あるきの会 (会長 森下孝一)

1.沿革

2009年9月、東灘マスターズゼミ2期生が卒業時に会員13名で立ち上げる(役員は会長を含む世話人6名)。シニアが多いので体力を養うのと大自然の素晴らしさを堪能しマスターズゼミOB生の懇親を深め、健康の維持を図る事を目的としています。会員数はOB1期～8期生で60名、毎年増減はありますがほぼ60名前後。

2.活動状況

年間を通して、主に六甲山系を日帰り月1回のペースで実施、昨年は京都貴船・鞍馬、奈良・山の辺の道へも出向く。



3.東お多福山草原保全・再生活動への取り組み

今迄は、山歩きで六甲山系の緑の恩恵を受けているばかり、その恩返しという意味合いを込めて2015年より六甲の保全・再生活動に参加することになりました。地元の東お多福山で活動が続けることで、いつの日か、生物多様性とススキの繁茂する草原に復活することを願っています。

4.備考

「東灘マスターズゼミ」とは東灘社会福祉協議会が主催した企業をリタイアあるいはリタイア予備軍の50才以上の男性を対象にした、それまで縁のない地域社会への入門講座(全10回)で今年10年目を迎えます。2014年から「東灘マスターズの会」(ゼミのOB会)が主催しております。マスターズゼミ山あるきの会はOB会の同好会の1つです。